



何かに情熱を注いでいる方を紹介します



私と日本画

三好 ^{あつひと} 温人さん (御荘平城)



▲3カ月をかけて描いたという闘牛の絵と三好温人さん



◀墨で下描きに濃淡を付けている様子

“写実とは違う、日本画のおもしろさ”

岩石を原料とする伝統的な絵の具「岩絵の具」を用いて和紙に描く「日本画」。御荘平城の観自在寺で副住職を務める三好^{あつひと}温人さんは、この文化に惹かれ日本画を描き続ける画家の1人です。

もともと、アニメや漫画が好きでイラストを描くことに興味があったという三好さんは、好きなものを学びたいと入学した美術大学で日本画に出会いました。「日本画は伝統的な絵画技法を用いますが、画家の主観でデフォルメしている部分があり、現実とは違う部分があります。それがおもしろくて日本画に興味を持ちました」と、日本画の魅力を話します。

大学を卒業してから高野山での仏門修行も始まり、3年ほど絵画から離れたという三好さんですが、自己表現をする場がなくなり、行き所のない感情が自分の中に募っていくのを感じたと言います。その感情を絵画にぶつけたいと思い、大学院に入って日本画を学び直し、現在まで作品を描き続けています。

躍動感のある生き物を描くのが好きだという三好さんのこだわりは、描く対象を必ず自分の目で見てから描くこと。「直接見てからでなければ、表面的な絵になってしまいます。本物の魅力を直に感じてからでないと、もう一筆が乗ってこないと感じます」と、実際に描いた絵の前で語りました。

現在は、描いた絵を京都の日本画グループの展示会に毎年展示したり、宇和島市の美術協会の展示会に出展したりしている三好さんは、「これまでは日本画の伝統的な題材を基に描くことが多かったのですが、今後は抽象的なテーマや文字や記号なども組み合わせた現代的な新しい表現にも挑戦してみたい」と、笑顔でこれからの抱負を述べました。

編集後記

奇跡的な天候回復により、無事開催されたトライアスロン大会。全国各地のトライアスリートの方や応援に集まった人々の熱気と笑顔に、徐々にコロナ禍の影響を抜け出しつつあることを実感しました。

これから夏休みシーズンに向け、昨年まで中止あるいは縮小開催されていたイベントもどんどん復活していくと思います。皆さんも熱中症には十分気をつけて、楽しい愛南の夏を満喫してください！

トライアスロン当日、撮影係としてコース内を巡回していた中で、予想を上回る沿道からの声援に感動し『国内屈指の応援団』と表現させていただきました。老若男女、いたるところから応援の声が聞こえてきて、その声援を受けて笑顔で手を振る選手たちがとても印象的でした。選手を追いかけて少し走っただけで息が上がり歩いていた私にも沿道から「頑張れ!」と声援をいただき、次の曲がり角までは小走りしました。 M

編集・発行

愛南町役場総務課 〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420 番地 電話：(0895)72-1211 FAX：(0895)72-1214

愛南町の世帯数と人口
令和5年6月1日現在

世帯数	9,962世帯	(-1世帯)
人口	19,265人	(-21人)
男	9,137人	(-15人)
女	10,128人	(-6人)
愛南町の高齢化率	46.4%	
※ () 内は前月比		
●10年前 同月の人口	24,202人	

<https://www.town.ainan.ehime.jp/>